

県産牛ふんで粒状肥料

全農ちば
朝日アグリア
化肥混合、出荷始まる

【千葉・全農】JA

全農ちばは21日、肥料メーカーの朝日アグリア（東京都豊島区）と共同で、県産の牛ふん堆肥を原料としたJAグループ千葉オリジナル粒状肥料「ちばの恵みぎゅーっと885」（1袋20kg）の出荷を始めた。地域資源を活用し、世界的な政情不安に左右されにくい肥料の供給と価格の安定につなげる。

「ちばの恵みぎゅーっと885」は、県産の牛ふん堆肥を約40%配合した粒状の混合堆肥複合肥料。堆肥と化成肥料が同時に施用できるのが特徴だ。元

肥、追肥、2作目・3

作目と連用することにより、地力の向上が期待できる。千葉県内の

JAで販売する。

全農ちばと同社は、約2年前から牛ふん堆肥の活用に向けた協議



を始め、耕畜連携に取り組んできた。良質な牛ふん堆肥の確保に向け、酪農家を巡回。酪農家の課題となっていた牛ふん処理の改善をはじめ、肥料原料とすることで酪農家の副産物収入を確保した。ニンジンなどで試作肥料を投入し、栽培試験も重ね、旺盛な生育を確認した。

全農ちばの林茂壽運営委員会会長は「原料調達から生産まで、県内で循環流通させ、資源循環型農業の構築と耕畜連携の促進・環境負荷軽減を目指す」と話す。みどりの食料システム戦略で掲げる化学肥料使用量の削減にもつなげる狙いだ。

県産牛ふん堆肥を使った混合肥料をPRするJA全農ちばの林会長（左）ら

（千葉市で）